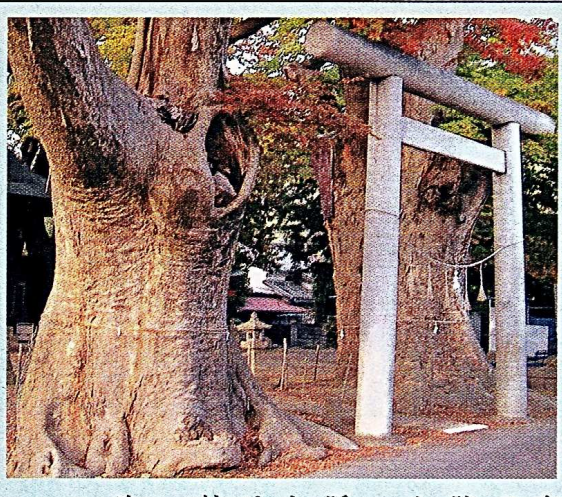
もっと知りたいふるさと⑫

天皇子神社

寂蒔の氏神である天皇子神社は、近村にたぐい稀なけやきの大木四本にかこまれた社殿で、六百余戸の氏子の崇敬の中心となっている神社です。

当社の御祭神は、第十一代垂仁天皇の第十四王子鳥取の王子と言われた「伊登志和気命」であり、境内はこの地にてお亡くなりになられた命の御陵墓でもあります。

その斎場に「正哉吾勝勝速日天忍穂耳命」と併せてお祀り申し上げ、古くは「王子の宮」「王子神社」「王子大明神」とも称されておりました。



神社の中には定紋を持たない神社もあるようですが、当社は文政十年（一八二七）に天皇子神社の社号を受け、菊の紋章を使用しています。

明治初年に春秋の例祭のほかに「王子守祭」が復活し、三十年間区全体の大祭として毎年王子守が選ばれ、各地区からねり物が出される等、格式の高い盛大な祭りが行われました。しかし、明治末期に至り王子守祭は不況や社会情勢の変化によって中止され現在に至っています。

在りし日の大祭の名残として秋の例祭の行列の中に「御陵祭」と書かれた御旗が加わり往時が偲ばれます。

氏子が寄せる崇敬の念は、脈々と受け継がれているとともに千古の歴史を物語るけやきの巨木は、如実に古社の風を呈しています。

この他、神社の境内には次の四つの末社が祀られています。

（一）秋葉社

本社殿に向かって左にある石塔です。秋葉大権現と称し、宮坂小太郎氏の屋敷にあった小社を安永三年（一七七四）に火防の神として境内に移したものです。毎年三月二十日厳粛に祭典が行われています。

（二）天神社

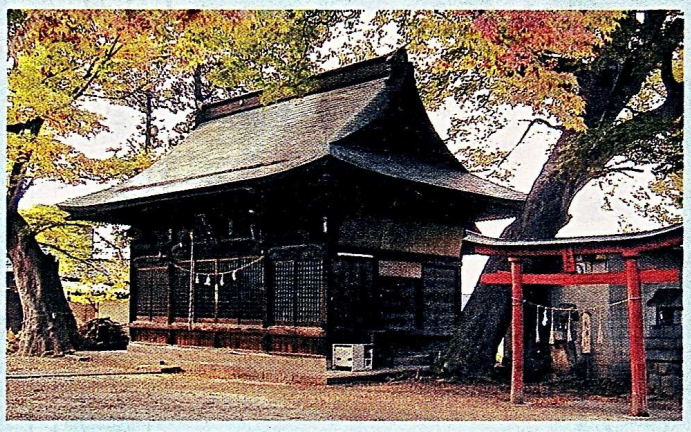
神社右側にある石造の小社で、石柱の上に安置されています。

かつては寂蒔の小字入淀地区の天神山にあった小社を、文政七年（一八二四）神社の境内に移したものです。この入淀地区は、当時千曲川がたびたび大洪水になり大きな被害を受けたので、天神社を水防神として祀られたのではないかと言われています。

（三）鹿島神社

境内の北東の隅にある石造流れ造りの小社で、自然石の上に安置されています。

弘化四年（一八四七）に善光寺大地震が起こり、北信全体が大きな被害を受けました。当区は被害が軽微でしたが、大天災を信仰によって乗り越えようとした願いから祀られたものです。



（四）養蚕大神社

養蚕は幕末頃から盛んになり、明治・大正・昭和と飛躍的に盛んになった産業です。

当区においても蚕様が生活の中心であり、養蚕なくして経済が成立しない時代でした。

明治初年には木造の養蚕社であったと思われますが、大正十三年には石造の養蚕社が再建され、鳥居まで建立されて養蚕大神社になりました。

寂蒔　宮坂　正明